

地域振興計画(中間案・2回目)への府民意見に対する京都府の考え方

対象	ご意見・ご提案(要旨)	京都府の考えかた
山城地域振興計画	府南部はお茶や観光だけではなく、大都市間の中心にある山城地域の特性を活かした新たな産業をどのように進めていくのか。学研都市の次に来る新たな夢のある構想を府のリーダーシップで構築してほしい。	山城地域振興計画における重点課題については、「地域プロジェクト」として取り組んでいます。「次世代ものづくり産業創造拠点プロジェクト」では、京都市南部や乙訓・山城北エリアを中心に集積する企業間の連携を進め、京都経済の牽引エリアとして一層の成長をめざしていきます。
	山城地域はよそ人が多く、地域とのつながりが弱く、京都市のように引きつけられる力も強くない。計画にはポイントを絞り、地域の人が地域を愛せるプランとして実行出来る計画を作成もらいたい。	山城地域振興計画については、「地域力でつながり、支え合う山城ならではの活力・協働・安心の地域共生社会の構築」を基本理念として、施策を進めていきたいと考えています。
	奈良(平城京)と京都にはさまれた、山城地域の立地を活かすべき。	山城地域の立地特性、地域特性を活かして、「宇治茶の郷づくりプロジェクト」等の各地域プロジェクト及び各具体的施策を推進し、「人がつながり支え合う、活力・協働・安心」の山城交流圏」づくりをめざします。
	交流の場づくり、地域で地道に活躍している人や情報提供者を活発に発掘してほしい。	地域に根ざした課題を解決するため、住民、NPO等地域団体、大学等の多様な主体が交流する場として「プラットフォーム」を形成し、協働による新たな事業展開を進めていきます。
	民間と行政、地域が協働し、地域の人々の力とともに行政のバックアップが必要。住んで良かったと思う山城にしてもらいたい。	
	「お茶と万葉の旅」マップはJR奈良線沿線だけでなく、久御山町も含めてほしい。	今回のマップ作成は「JR奈良線沿線観光キャンペーン推進協議会」主催事業として実施したため、JR奈良線沿線が中心となりましたが、今後は、山城全域について、お茶を通じた観光振興と古典の舞台であったことをPRしていきたいと考えています。
	山城振興局内の自治体が共同体として京都市に対抗出来る自治体として活動してほしい。人口70万人の魅力的な街になるのではないかと。阪神間の都市のように存在感のある地域にしてほしい。	山城の地域資源を活かした広域観光や、域内の交流を促進し、山城地域全域が一体となった活力ある地域を創造します。(広域観光・交流創造プロジェクト)
	歩道を着実に整備し、京都府と京田辺市と市民が一体となって安全・安心な社会を実現してもらいたい。	歩道や自転車通行帯の整備、歩道の段差解消等のバリアフリー対策を図るとともに、交通の安全確保につながる取組を支援していきます。

南丹地域振興計画	「次世代へ繋ぐ京都丹波づくり」には、次世代育成、教育に関して現在の取組を説明したり肉付けした方が良いのではないかと。	「京都丹波地域の現状認識」等の中で、学校教育や教育連携等の現在の取組状況を追加記載し、また、「(1)安心・安全で、次世代へ繋ぐ京都丹波づくり」の中で、ふるさと京都丹波に愛着と誇りを持ち、ふるさとの良さを発信できる人づくりなど、具体的課題や目標を追加記載しました。
	一つひとつの創意工夫が花開く「京都丹波」、名実ともに京阪神地域からひと足のばしの「京都丹波」について、地域資源を生かした観光振興の姿を提示して欲しい。	豊かな自然の恵みと地域住民が守り伝えてきた伝統文化、歴史ある寺社があるなどの地域特性と、京阪神に近い立地条件をいかした「京都丹波」ならではの観光サービススタイルで誘客を拡大することなど、めざす京都丹波の観光振興の姿を追加記載しました。
丹後地域振興計画	丹後の活性化には、海外や国内との交通アクセスの充実が必要。観光、産業発展のため、域外から来る人の利便性を高めることが大切ではないか。	観光や産業の振興のためには、京都縦貫自動車道の早期整備をはじめ、道路整備の推進が必要と考えています。
	丹後に人を誘致する施策(観光・交流)をすれば、地域の活性化につながると思う。	丹後地域振興計画では、丹後地域の活性化のため、様々な産業に波及効果を及ぼす「観光」を牽引役として、交流人口を増やし、農林水産業、商業、サービス業などの産業振興や、雇用機会の拡大等を図ることを一つのビジョンとしています。
	自動車で来る人は日帰り、鉄道利用者は、宿泊する人が多いなど都市からのアクセス方法によって訪問目的、滞在時間が異なる傾向がある。アクセス別に施策を検討できないか。	丹後地域の活性化のためには、道路網の整備はもとより、北近畿タンゴ鉄道や路線バスとの連携強化により、より利用しやすい公共交通ネットワークの実現が必要と考えています。
	丹後地域への交流人口が増えるよう地域住民を巻き込む事業を住民と協働して推進することが大切。	交流人口を増やすために、観光を牽引役として産業振興を図るとともに、地域課題について、住民、団体、行政等が幅広く意見やアイデアを出し合う場を通じて協働活動を進めていく必要があると考えています。
	農林漁業は力のある若者が必要。仕事や住むところがない都会の若者が丹後で永住してもらえないか。若者も住める丹後にしたい。	農林水産業の担い手確保のため、就業希望者に対する情報ネットワークづくりや、関係機関との連携による新規就業環境整備が必要であると考えています。
	丹後の発展には兵庫県北部との交流・協働が必要。そのためにも、生活道路の整備をお願いしたい。	高速道路網の整備などを踏まえて、中丹地域と連携した京都府北部観光の強化とともに、兵庫県や福井県といった隣接府県との連携による周遊観光の提案など、広域観光を推進します。
	府独自の未来ある農業施策をお願いしたい。食の王国づくりの最終形はどのような形になるのか。丹後を活かすためには様々な分野でそれぞれの市町が連携していくことが大切ではないか。	「丹後・食の王国」プロジェクトでは、丹後の強みである農水産物等を増強するとともに、丹後の特色をいかした新たな食材の開発や食関連ビジネスの創出、観光との連携で販路開拓やPRを強化することをめざしています。
	美肌効果のある蚕や桑を使った製品で高齢者による町おこしを進めることができないか。	丹後地域の特色をいかした新たな商品開発の支援が必要と考えています。また、丹後地域には元気な高齢者が多く、その技術や経験を積極的にいかしていく取組が必要と考えています。
京都縦貫道の全通を機に、宮津と伊根が協力して「京都の海の駅」として発信し、京都から1時間で行けることを強調すべき。行動は私達がするが、府、市もバックアップをお願いしたい。	豊かな海に恵まれている丹後地域の特徴をいかして、漁船等を活用したクルージングの運航区域拡大や漁業体験等の取組を進める必要があると考えています。	

丹後地域振興計画

<p>地域を活性化させるため、子どもたちのための地域づくり、環境保全や祭りなどを企画すべきではないか。</p>	<p>地域に伝わる行祭事などを次世代に伝承するとともに、平成23年に行われる国民文化祭をきっかけにして、地域での様々な文化活動を支援することが必要だと考えています。</p>
<p>観光の活性や優秀な人材が集めるため、丹後のブランドイメージ戦略を展開すべき。</p>	<p>丹後地域の魅力ある「食」を伸ばし、広げる取組では、観光との連携を重視し、丹後の新たな魅力として産品開発やブランド化を進め、雇用機会の増大、担い手の確保・育成を図りたいと考えています。</p>
<p>丹後地域の織物産業の中心である丹後織物工業組は重要な施設であり、発案・企画力・付加価値加工などの発信基地として織物産業を支えているが、非常に厳しい状況となっている。活力ある明日へと躍進出来るように丹後の織物産業並びに丹後織物工業組合共同加工施設に地域産業の復活となる地域振興策を願いたい。</p>	<p>丹後地域の織物業は、和装需要の減少や外国産製品の輸入などで厳しい経営環境に置かれていますが、絹織物産地としては全国一の規模を有しています。また、ハイパーシルクをはじめとした新技術の活用や、和装品だけでなく、生活用品、産業資材、環境分野などへの用途拡大も重要です。丹後織物ルネッサンス事業等により、丹後地域が有している技術を活用した新製品の開発や販路開拓の取組を進めたいと考えています。</p>
<p>機械金属企業の企画力、開発力の向上のため、産学連携の側面支援(大学シーズとのマッチング)やビジネスパートナーの積極的紹介 など、他社の企画・開発力との提携に対する施策を期待する。</p>	<p>人材育成では、「丹後・知恵のものづくりパーク」を有効活用し、在職者の技術向上、後継者育成など地域を担う人づくりが大事ですが、更には、地域内にとどまらず、大学と地域との連携や、Uターンをはじめとした地域外の人材活用も必要と考えています。</p>
<p>企業の企画力、設計・開発力向上を目的とした人材の育成には、目標が明確で実践的内容を要望する。</p>	
<p>試作産業の育成のため、丹後試作隊の課題を分析し、問題となる項目の中で行政として取組める具体的な施策を期待する。</p>	
<p>受注先の確保及び新規開拓のため、大都市、海外での展示会への出展、大企業を対象とした展示商談会の企画や参加者への補助を充実してほしい。</p>	
<p>丹後地域内企業ネットワーク化の推進により受注量が増える等の明確な経済効果が見えるネットワーク推進施策を要望する。</p>	<p>試作産業の育成は、新規分野にチャレンジする観点で、大学と地域との連携も含めて支援して参りたいと考えています。</p>
<p>丹後地域の機械金属企業の多くは同種の工作機械を保有しているが、織物・機械金属振興センターが中心となり「1社(グループ)1商品」運動を展開するようにし、下請け企業から自社商品を持つ企業になれるような支援が必要。</p>	<p>また、産地として必要な生産基盤や生産工程を維持するため、産地内での受注先確保に向けた支援(受発注先のあっせん等)を行って参りたい。</p>
<p>介護用品、農業機器、省エネ関連など希望者を、数人単位のいくつかのチームに分けてアイデアから販売まで取組ができるような新商品開発プロジェクトチームの設立に向けた指導をお願いしたい。</p>	
<p>機械金属業の振興のため、京都工芸繊維大学と産学公連携を強化して研究開発を促進すべき。</p>	

「丹後・知恵のものづくりパーク」を活用し、産学公連携の実践的なものづくり研修の体系化を望む。	
総合的な中小企業支援として、京都府元気印中小企業認定制度による認定等による支援、「きょうと元気な地域づくり応援ファンド」や「きょうと農商工連携ファンド」などがあるが、企業の体質・体制に合致した支援施策を要望する。	研修や人材育成に限らず、産業や事業者の課題については、丹後地域の事情に応じて、関係機関が連携して問題解決を支援できるよう取り組みたいと考えています。
丹後活性化の即効性のある手法は、優良企業の誘致。いかに優良企業に進出してもらうかの戦略も必要ではないか。	今は世界的な不況の影響もあって企業誘致には厳しい環境ですが、京都縦貫自動車道など高速道路網の整備が進むことにより、企業誘致にはプラスになる要素もあると考えています。丹後地域には、織物業、機械金属業など「ものづくり」産業の集積がありますので、これらを生かしていくことが重要と考えています。さらに、丹後地域の豊かな自然や、歴史・文化、「食」などの地域資源をいかし、観光業を牽引役として、他産業への波及効果をねらって、食関連ビジネスの創出を図ることとしています。
丹後の中小機械金属業へ発注してくれる企業が丹後に進出できるようにしてほしい。	
丹後に、基礎研究・開発の拠点を造ることができないか。今ある技術と、新たなる未来の必然的必要性を開発し展開することが急務。世界に展開でき、10年後実用を目指す研究開発産業の創立を推進してもらいたい。	海外を含めた他産地との競争が激化する中で、企業の研究開発はますます重要になると考えています。「丹後・知恵のものづくりパーク」の有効活用により、企業と連携した試作、研究開発を進めるとともに、大学等地域外との連携・協働による産業振興を図って参りたいと考えています。
「丹後・知恵のものづくりパーク」の機能を十分には活用しきれていない。十分すぎるほどの機器が揃っているが、技術系職員が量質共に決して充実しているとは言えない。ものづくりパークに行けば”何か新しい情報がある”。”人と人(経営者と経営者、技術者と技術者、経営者と技術者、織物と金属 etc)との交流がある。”と期待できるような開かれた空間になってもらいたい。	「丹後・知恵のものづくりパーク」については、人材育成研修に加えて、 <ul style="list-style-type: none"> ・未来を担う小中学生対象のおもしろ科学教室 ・府立峰山高等学校工業科の課外実習 ・在職者の技能検定資格取得につながる研修 ・企業と府織物・機械金属振興センターが連携した試作、研究開発 などに努めるとともに、施設を有効活用し、企業の企画力・開発力等ものづくり力の向上に努めて参りたい。
「丹後・知恵モノづくりパーク」の有効活用するため、府立高校を職業訓練の場として活用できないか。	
小規模な丹後企業が一貫生産できるように行政が積極的に支援してほしい	丹後地域の機械金属業には、素材から仕上げまで一貫生産できる強みがありますので、それをいかすことができるように、地域企業のネットワーク化を推進して参りたいと考えています。
丹後の商品を売る際には、丹後弁を使ったらどうか。	「丹後ならではの」「地域とふれあう」体験を重視し、観光客のニーズに対応した接客サービスの充実を図ることが必要と考えています。
地域の宝はそれぞれに関連しあっている。ちりめん、SL、古墳など地元の宝を教育の中に取り入れていくことが大切ではないか。	丹後地域には、歴史、文化・伝説、民話、古代のものづくりの遺跡、伊根の舟屋やちりめん街道など魅力ある町並みなど様々な「宝」があります。先人たちが守ってきた自然やくらしなどを次世代に伝えていくとともに、観光等にもいかしていく取組が必要だと考えています。
丹後は、様々な産業文化があり、自然も含めアピールできる場所である。知事が先頭に立って、PRしていったらいい。	

丹後地域振興計画	丹後観光は、食だけでなく自然や体験(エコツーリズム)なども組み合わせて他の地域と競争していくべきではないか。	観光において、「食」は重要な要素ですが、それ以外にも、丹後の奥深い歴史、文化・伝説をいかした観光誘客を進めるとともに、「丹後ならではの」「地域とふれあう」体験メニューとして、自然をいかしたエコツーリズムや、農業体験などのアグリツーリズム、山陰海岸ジオパークをいかしたジオツーリズム、海をいかしたブルーツーリズム、温泉をいかす取組などを進めたいと考えています。
	風光明媚な海を持つ日本海の自然という宝を住民は認識し、価値を知らないのではないか。京都・大阪・神戸市民に来てもらうために日帰り無料ツアーを定期的に出さないか。	丹後地域には、歴史、文化・伝説、民話、古代のものづくりの遺跡、伊根の舟屋やちりめん街道等の魅力ある町並みなど様々な「宝」があります。これらを、観光等にかかしていく取組を進めたいと考えています。JR、北近畿タンゴ鉄道(KTR)、バスなど公共交通機関と連携した観光プランや、滞在を促進する旅行商品の開発などに取り組みたいと考えています。
	丹後7姫のゆるキャラ化など観光振興のための丹後地域全体の知名度をアップすべき。	丹後地域振興計画では、丹後地域の様々な地域資源をいかして、観光業を牽引役として、他産業への波及効果をねらうこととしています。そのためには、丹後地域の歴史、文化・伝説をいかして、テーマ性のある資源を活用して、こだわりの魅力創出をして参りたいと考えています。
	道・交通網のない(不便な)ところに人も住まない、来ない。産業振興の基礎となる高速道路と公共交通網を整備すべき。	産業振興、観光振興に当たっては、道路整備が重要と考えていますので、京都縦貫自動車道の早期整備、鳥取豊岡宮津自動車道の事業推進や、幹線道路の通年2車線確保等の地域内の道路網整備に努めて参ります。
	未だに十分でない道路整備の促進	